

HOT & ほっと

あやせのこと、何でも知りたい…

綾瀬ロケーションサービス シンポジウム



綾瀬ロケーションサービスシンポジウムを開催します。
昨年4月に沖縄国際映画祭に出品した短編映画「ルーツ」の上映や、同映画の監督を務めた渋谷悠さんなどによる撮影秘話、これまでの綾瀬ロケーションサービスの取り組み内容を紹介するパネルディスカッションなどを予定しています。映画にも登場するご当地グルメ「あやせとんすきメンチ」の販売もあります。



時1月26日(日)13時30分～16時 場 オーエ 短編映画「ルーツ」の一場面
ンス文化会館定300人(申込順) 同サービス、綾瀬市商工会 1月20日までに氏名、ふりがな、電話番号、希望席数を〒252-1192市役所商業観光課へ郵送(消印有効)、
MAIL wm.705685@city.ayase.kanagawa.jp ☎70・5685

映画やドラマなど 官民一体で撮影を受け入れ中

同サービスは、平成26年4月に、市民などで結成した「あやせ市ブタッコリ～ロケ隊(通称:ブタロケ隊)」と市で組織されました。市の知名度向上と地域の活性化を目的に、映画やドラマなどの撮影を誘致しており、エキストラの手配やロケ候補地の紹介を行っています。撮影の誘致のみに留まらず、ご当地グルメの開発やロケ地巡りを楽しめるロケ地MAPの制作、全国で初めてのシーン写真入りロケ地看板の設置など、ロケ地を活用した観光にも力を入れています。

ロケ候補地、エキストラの募集

映画やドラマなどの撮影にご協力いただけるロケ候補地やエキストラを募集しています。詳しくは、市ホームページをご覧ください。

問 同課

神崎遺跡出土土器 圧痕ワークショップ

遺跡から出土した土器に残る圧痕の型取りをして、土器に混入した「モノ」を調べる「神崎遺跡出土土器圧痕ワークショップ」の参加者を募集します。

圧痕とは、粘土に入り込んだ虫や植物が、土器を焼いたときに穴として残った痕跡です。圧痕を見ることで、発掘調査では見つけることが難しい虫や植物、食べ物などを知ることができ、土器を製作した当時の生活環境を調べることができます。



講師は、明治大学黒耀石研究センター客員研究員の佐々木由香さん。

小さな土器の破片に開いた穴から、縄文時代を知る大きな情報を取り出してみませんか。

時2月8日(土)9時30分～15時・22日(土)9時30分～16時、3月7日(土)9時30分～16時(全3回) 場 神崎遺跡資料館 中学生以上で2月8日に必ず参加できる方定13人(申込順) 持 エプロン、拡大鏡、昼食 申 1月6日9時から生涯学習課 ☎70・5637

問 同課

農業婚活

～綾瀬で「イチゴ」会～

農家との出会いのきっかけをつくるため「農業婚活～綾瀬でイチゴ会～」を開催します。市内の農家と一緒にイチゴ狩り体験をし、懇親会をとおして交流を深めます。



時2月16日(日)13時から 場 海老名駅集合・解散 対 25～45歳の独身女性定10人(抽選) 費 1000円 同 綾瀬市農業後継者育成対策協議会 申 同協議会事務局(農業振興課内)にある申込用紙(市ホームページからダウンロード可)に記入し、1月31日までに〒252-1192市役所綾瀬市農業後継者育成対策協議会事務局(農業振興課内)へ郵送(消印有効)か MAIL wm.705622@city.ayase.kanagawa.jp

問 同事務局 ☎70・5622

かながわの遺跡展 縄文と弥生

時代と文化の転機を生きた人々



土偶(上土棚南遺跡出土) 土器(上土棚南遺跡出土)

県内各地の発掘調査で出土した資料を基に、テーマ「縄文時代から弥生時代への移り変わり」に沿った展示を行う「かながわの遺跡展 縄文と弥生一時代と文化の転機を生きた人々」を開催します。

展示品は、上土棚南遺跡(綾瀬市)や杉田貝塚(横浜市)、石神遺跡(茅ヶ崎市)など県内各地の縄文時代後期から弥生時代にかけての遺跡出土資料です。

展示をとおして変化を探る 縄文～弥生時代の暮らし

今回のテーマである縄文～弥生時

ミニコーナーでは、土偶を展示します。上土棚南遺跡(綾瀬市)出土の土偶だけではなく、本市出土土偶と「そっくり」といわれ、一緒に展示されるのは今回が初めてです。

1月12日(日)と1月19日(日)には県職員による展示解説も行います(13時30分から1時間程度)。

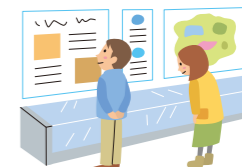
県内で出土した様々な資料と市内で出土した資料を併せて見学で

代は、狩猟採集社会から稲作農耕社会へと変化する転機であり、生活様式が一変する歴史上の大きな転換期であったといえます。

世界的に気候が温暖化した縄文時代中期には、大きな集落が多く作られるようになりました。その後、縄文時代後期の終わり頃から晩期にかけて、人々が生活していた跡が大きく減少します。世界的に寒冷化したことによる食料の枯渇が原因だとされ、その危機を乗り越えるために稲作が取り入れられたと考えられています。しかし近年、縄文時代後・晩期の研究が進み、新たな分野の食料を確保するために、寒冷化に合わせて新たな食文化を積極的に取り入れていったのだと考えられるようになりました。

展示をとおして、変動する自然環境に適応した人々が、新たな暮らしを積極的に取り入れていたことに着目して、縄文時代から弥生時代へと移り変わる時期をどのように暮らしたのかを探ります。

問 生涯学習課 ☎70・5637



あやせのものづくりを支える 多様な人材から ものづくり再発見

とうちゃん、かあちゃん あんちゃん、わんちゃん ワンチーム

諏訪園さん夫妻と息子、そこに愛犬ココロが加わる3人と1匹の家族経営である(有)石川金型製作所。バイク部品など、鋳物の型を設計・製造する会社だ。

「鋳物は生き物。愛情を込めてやれば良いものが出来る」と、熱意を込めて「ものづくり」を語る3人。そんなものづくりに熱心な家族も、会社から一歩外に出ると、家



族で応援しているプロ野球チームの話で持ち切りだ。「他のチームも気になるけれど、ワンチーム(家族)で同じチームを応援せざるを得ないでしょ」と笑うお母さん。

市内の草野球チームに所属している息子さんは、休日、試合の帰りに工場へ立ち寄り作業をすることも。ものづくりが生活の延長にあり、生活の延長にもものづくりがある。「ものづくりも野球も、ワンチームであることが大切。1人も欠けてはいけない。」

とうちゃん、かあちゃん、あんちゃん、わんちゃん。趣味もものづくりも、家族一丸となって汗を流す諏訪園さんの工場には、ものづくりへの愛と家族の絆であふれている。

問 工業振興企業誘致課 ☎70・5661

